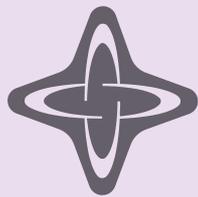


中央区男女共同参画ニュース



Bouquet

ブーケ

特集

たのしい生活

プライベートタイムを大事に

No.55
2008.3

CONTENTS

特集 たのしい生活 プライベートタイムを大事に

地域色豊かな「大人の学校」 早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校
植物や地域との触れ合いで生活に彩りを 日本園芸福祉普及協会
区民のボランティア活動を応援 中央区社会福祉協議会ボランティア区民活動センター
ブーケ21事業協カスタッフのプライベートタイム

2P

輝くひとにインタビュー in 中央区 上遠野 渉さん

6P

Topics 「素敵なカップルになりませんか? 夫婦再生講座」

7P

企業レポート 株式会社 プレソナ

7P

中央区ニュース

8P



銀座を走るペロタクシー

たのしい生活

プライベートタイムを大事に

「たのしい生活」特集最終回は、プライベートタイムのあり方について考えます。人がいきいきと過ごすためには、やりがいのある仕事や心身の健康などに加え、自分のための充実した時間をもてることが大事です。生活に潤いを与え活力ある毎日をつくるためには、どうしたらよいのでしょうか。プライベートタイムの充実に役立つ事例を紹介します。

「プライベートタイム」は自分の時間

そもそも、「プライベートタイム」とはどのようなものなのでしょうか。それは、「自分のために使える自由な時間」であると考えられます。

では、世の中の人々は、これらの時間をどのようにとらえているのでしょうか。

「国民生活に関する世論調査」(内閣府、平成19年)によると、自分の自由になる時間の過ごし方としては、「ラジオを聞いたり、テレビを見たりする」(54・3%)と「回答が最も多く」、「趣味を楽しむ」(43・8%)、「のんびり休養する」(38・4%)と続き、「家族との団

らんを楽しむ」(34・1%)という意見もあります。

中でも、「趣味を楽しむ」は20歳から30歳代の男性に多く、「のんびり休養する」は40歳代の男性と20歳代の女性「家族との団らんを楽しむ」は30歳から40歳代の男性や、20歳から40歳代の女性で多数となっています。

この結果から、多くの人は「プライベートタイム」を、自分が楽しいと感じる活動をしたり、親しい人と過ごしたり、休息をとることなどによって、心身をリフレッシュさせる時間ととらえていると考えられます。

それではこの自分の時間をより充

実させるにはどうしたらよいのでしょうか。趣味やスポーツに打ち込む方法もありますが、自分の視野を広げたり、知識を深めたり、地域活動などをするのも有効です。これらの事例を紹介していきます。

人生豊かにする生涯学習

自分の人生や日々の生活を充実させる目的で、広く取り組まれているのが生涯学習です。

「生涯学習に関する世論調査」(内閣府、平成17年。以下調査1)を見てみると、生涯学習を「趣味・教養を高め」、「高齢者の生きがいを充実」、「生活を楽しく、心を豊かにする活動」などととらえる人が多く、生活に彩りを添える活動であることがわかります。

調査1によると、最近二年程度の間、生涯学習に取り組んだ人の中では、運動や健康法に関するものを選ぶ人が最も多く、音楽や美術といった趣味的なものや文学や歴史などの教養的な

もの、仕事にも役立つ資格取得をめざすものなども人気を集めています。



早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校

参加経験者の多くは、生涯学習に取り組む主なメリットとして、「自分の人生がより豊かになっている」、「自分の健康の維持増進に役立っている」、「日常の生活や地域での活動に活かしている」などの点を挙げています。また、「他の人との親睦を深めたり、友人を得る」ことを目的に取り組むという人も多いようです。

自己啓発活動で自分を高める

自分の能力を高めたり、技術に磨きをかけるものとしては、自己啓発活

プライベートタイムの充実をお手伝いします

地域色豊かな「大人の学校」

早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校

八丁堀駅から徒歩数分、「早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校」は生涯学習や自己啓発を目的とした“大人の学校”です。「生活」や「総合」、「ビジネス・資格」、「心と身体のケア」などにジャンル分けされた講座が、一年間で約600も用意されています。朝は午前10時30分から、夜間は午後9時30分まで開校しており、老若男女を問わず、さまざまな人が自分のライフスタイルに合わせて学んでいます。

ユニークなのは地域ゆかりの企画を行っているところで、東京界隈の変遷や地域固有の文学などを学ぶ「江戸・東京」は、八丁堀校独自の講座です。「外国語」のコースにも特徴があり、「ボランティア通訳講座」など目的に合わせて勉強できるものがあり、励みになりそうです。

「早稲田大学の教授陣をはじめ、各分野の第一人者を招き、趣向を凝らした企画を用意しています。アカデミックで質の高い内容が自慢です。熱心に通う受講生には、所定単位取得時に発行される修了証の獲得を目標とする人も多くいます」と、事務局の五島友理さん。春の訪れとともに、ブラッシュアップを目指すのもよいかもかもしれません。



早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校

早稲田大学の教育、研究成果を広く社会に還元することを目的として、1981年に誕生。八丁堀校は、区立小学校の廃校舎を利用して2001年に開校。

TEL 03 5117 2073

URL <http://www.waseda.jp/extension/>

動もよいでしょう。ご自身は、主に職業に関連する能力を向上させるためのものであり、趣味的な活動も含める生涯学習に比べると、仕事に活かしたいという目的がある人に向いているといえます。

ものを選ぶ人が多いようですが、直接関係しないテーマの講座などでも、受講者相互の共同作業やグループ討議などを通して業務に関するヒントを得る、といった利用をする人もいます。

内容としては、経理や税務、秘書業務などの社内事務に関する知識を学ぶものの、電算システム関連の技術や語学、起業に関するものなどがあります。現在たずさわっている業務に直結する

活動の場には、社内外の自主的な研究会や民間教育訓練機関の講習、通信教育などを利用する人が多く、インターネットを活用して独学する人も増えています。

プライベートタイムの充実をお手伝いします

植物や地域との触れ合いで生活に彩りを

NPO法人 日本園芸福祉普及協会

協会では、地域の仲間と協力して植物を育てる体験がもたらす健康的、教育的、福祉的效果を重視し、これらを社会に広める担い手となる「初級園芸福祉士」を養成しています。現在、全国で約3000人の有資格者がまちづくりや福祉、教育の分野で活躍しており、中央区内でも浜町公園や教習屋橋公園の花壇整備などを近隣の人々と行ってきました。

母親の介護中、野菜や草花と接して顔をほころばせる姿に触れた経験をもつ事務局長の大野新司さんは、「植物や園芸の作業が人の心を豊かに、身体を健康にすることは協会の調査でも実証されていますが、まずは自分が楽しいと思えるものに無理のない範囲で取り組むことが大事です」と語ります。

花壇の手入れなど、初級園芸福祉士が地域で活動していると通行中の人が興味をもって話しかけてくることも多いといえます。植物に癒されるだけでなく、交流の輪を広げ、自分が住む土地に対する愛着を育てる側面もあるようです。「地域のお手伝い」と考えると気負いがちですが、関心のあるものからかかわることができ、自分なりの楽しみを増やしていける協会の活動は、生活に彩りを添える一助となってくれることでしょう。

NPO法人 日本園芸福祉普及協会

初級園芸福祉士養成講座のほか、健康に関する調査、国内外の園芸福祉活動の事例視察、地域団体との協働活動などの事業を幅広く展開。

TEL 03 3563 0222

URL <http://www.engeifukusi.com>



ボランティアで社会貢献

生涯学習などと並んで、近年人気があるのがボランティア活動です。「社会意識に関する世論調査」(内閣府、平成19年)によれば、何らかのかたちで社会の役に立ちたいと考える人は6割を超えており、参加してみたい活動としては、リサイクルや牛乳パック回収などの環境保護活動、高齢者介護や子

どもの世話などの社会福祉的活動、町内会などの地域活動が上位を占めています。

また、調査1によると、ボランティア活動経験がある人の間で参加率が高いものは、環境保護活動のほか、スポーツやレクリエーションの指導、募金活動などで、ほかにも公共施設における保育や展示説明のような活動もあるということです。

現実には課題も

このように、自分の時間を充実させる方法はいろいろありますが、仕事をもち人には、これらの活動を妨げられる問題もあるようです。

「平成19年版男女共同参画白書」(内閣府。以下「白書」)によると、仕事をもち人の中で「プライベートな時間優先」を希望する人は独身者に多く、男性(45・8%)、女性(40・5%)となっています。既婚者では、仕事・家事・プ

ベートを両立」を望む人が最多で、男性(32・0%)、女性(45・9%)となっていますが、いずれにしてもプライベート時間を十分に確保したいと考える人は少なくないことがわかります。

しかし現実には、既婚女性の6割近くが仕事や家事を優先、既婚男性や独身男女では4割から5割の人が仕事を優先しています。男女とも、仕事優先を望む人はわずか3%未満であるのに対して、実際には仕事優先

の生活となっている人が多く、希望と現実には大きな差があるといえます。

短時間でも自分の時間を

現実には自分の時間を充実させることが困難な人が多い中、希望する生活に少しでも近づけるにはどうしたらよいのでしょうか。

事業者には、社員の生活を充実させる努力が求められます。社員が健康を損ねたり、家庭生活との両立が困難になるような労働環境では、各人のプライベート時間の確保は成り立たず、業績向上につながる仕事も期待できないでしょう。実際、「白書」によれば、結婚の有無や男女を問わず、「仕事と生活のバランスがとれている」と感じている人の約7割が仕事に積極的に取り組んでいるという結果が出ており、仕事と生活の均衡は社員の意欲と比較することが実証されています。社員が健康な生活を保障することは、事業主にとっても有益といえます。

個人でも、身近なところから情報を集めたり、日々の中で短時間でも自分の時間をつくるのが大事です。

生涯学習などをすでに実践している人は、その情報を新聞や雑誌、インターネットなどから得るほか、地域住民や町内会による旧来の連絡ツールも利用している例が多いようです。多忙な中で新たな活動を始めるのは難しいかもしれませんが、積極的な地域活動

を行えなくとも、近隣の人との関係を大事にすることで、些細な交流から得られる情報があるかもしれません。



中央区社会福祉協議会 ボランティア区民活動センター

また、職場にも能力開発の経費援助やボランティア休暇などの制度が用意されている場合もありますし、最近では社会貢献活動を重視して、周辺地域の防災活動や美化運動などを積極的に行う事業所も現れ始めているので、これらを活用するのもよいでしょう。

あらゆる人が十分な自分の時間を過ごすためには、一人ひとりがその重要性を認識し、お互いに気遣いあうことが大事です。雇用主は従業員の労働状況に気を配り、働く人自身も同僚や家族と協力して、それぞれが自分の時間を確保できるよう気をつけたいものです。趣味をもったり、知識や技術を得るために勉強したり、ボランティア活動などにかかわってみると、新たな出会いや深い充足感が得られます。自分の時間をもつことで心身の健康を保ち、たのしい生活を送りましょう。

プライベート時間の充実をお手伝いします

区民のボランティア活動を応援

中央区社会福祉協議会 ボランティア区民活動センター

宝町駅に程近い「中央区社会福祉協議会ボランティア区民活動センター」では、ボランティア活動の支援や相談の対応をしています。区内で活躍するボランティア団体の紹介資料や催事の案内などが集められたブースもあり、ボランティア活動をしたい人の参考になる情報が揃います。「特技をいかそうと来所する人もいますが、活動内容や参加目的が定まらない場合も相談に応じますので、気軽に足を運んでください」と、職員の手嶋一さんは話します。

センターではボランティアに関する各種講座も実施していますが、中でも人の話に耳を傾ける技術を磨く「傾聴ボランティア養成講座」が人気だそうです。また、車椅子などを使って障害のある人や高齢の人の状態を体験したり、ボランティアに親しむための出前体験講座なども行っています。

ほかにも「中央ぶらねつ(中央区社会貢献企業連絡会)」の事務局として、参加企業とともに地域貢献活動の企画や情報提供をしており、隅田川の河川敷緑化や区内の美化活動などを実施しています。在勤の人は、ボランティアを通して勤務先の地域に触れるのもいいかもしれません。



中央区社会福祉協議会 ボランティア区民活動センター

ボランティア情報紙「キャッチボール」の発行、活動のための資器材貸出等を通じ、ボランティア活動の普及、推進をめざしている。

TEL 03 3206 0560

URL <http://www.shakyo-chuo-city.jp/>

ブーケ21事業協力スタッフの プライベートタイム

可能性広げてくれる「ブーケ21」

橋谷信代



よっか。

「これまで点字やホームヘルパーの講習など、さまざまな講座に通いました。子どもが登校している間に急いで出かけた時、どこぞでテキストを広げたりしたことが懐かしく思い出されます。」

息抜きのもりで始めた稽古事も近年では興味の幅が広がっており、事業協力スタッフの活動もその一つです。子育てが終わったのを機に新川へ移り住んだのですが、同区内とはいえず住み慣れた地域や友だちと離れ心細く感じていた私にとって「ブーケ21」やその講座は自分の可能性を広げてくれる新たな出会いでした。「ブーケ21」を通じて夫婦関係や子どもたちが働く環境について情報を得ることができ、楽しい毎日です。今後、さまざまな自分を楽しめて、ちょっぴり充実感があるものに取り組んでいきたいと思っています。

趣味の料理で気分転換

矢部和以

私の場合、料理作りがプライベートの充実といえます。手料理を家族友人と食べるといふ楽しみが待っているからです。何を作るかに始まり、全体のメニュー構成を考え、どこでどの食材を買つかに至るまで楽しさは発展します。築地市場にもよく行きます。作業効率を上げるため、手順を頭の中で組み立ててみることもします。そんなことを通勤途中などに考えるところから、プライベートの充実が始まっていると思います。献立の計画や下ごしらえなどを含め、3時間ほどの食事時間に対してその何倍も準備に費やしていますが、全く苦にならず、仕事との区切りが入っています。

一方で趣味の料理とは違ったものですが、事業協力スタッフの活動も自分の時間に幅を持たせてくれるものだと感じています。住みよい地域社会のために、微力ながら自分ができることを考えるきっかけとなり、また多くの方に読んでいただく文章を書くという点で勉強になっています。

日々の暮らしも、視野を少し
広げるだけで有意義なものに

村田進益



福にする

プライベートタイムが充実していることの重要性を感じるのには、生活の充実が仕事に、仕事の充実が生活にいきっていると実感すると思います。仕事も私生活もハッピーでありたい、でも自分だけハッピーにならない。他人も幸福にするような楽しい生き方こそ、自分にとっても充実した人生であるように、私には思えます。事業協力スタッフとして広報誌の編集に携わる中では、生活者の目線を取材し、その内容を発信する作業を通じて、多様な方々とお話しができました。市民として社会参画することで、常に学び続け、自身の成長を促していくことの大切さも教わりました。

日々の暮らしや友人との話らいも視野を少し広げるだけで、「ああ楽しかった」と心の底から喜べる有意義なものになることを、いま実感しています。

自分にプラスになり、社会のためにもなるように使いたい

脇坂文栄

私にとってのプライベートタイムとは、気持ちの赴くまま、自分のためだけに使える時間です。おいしいものを食べたり、欲しいものを買ったり、時間に追われることもなく、自分の好きなように過ごすリラックスタイムです。しかし私は、プライベートタイムを制約なく自由に過ごしたいと思つ反面、無駄な時間に終わらせたくないとも思います。将来の自分にプラスになり、なおかつ人のため、社会のためになるように使うのが理想です。

『Bouquet』の編集活動を行ってきた2年間では、以前から興味があった取材や編集の手法を学ぶとともに、男女それぞれが自分らしく生きる世の中にしていくための一助を担うことができたと感じています。仕事を離れれば、社会貢献もすることができ、まさに充実したプライベートタイムを実現することができました。

1年間「Bouquet」の制作にたずさわった区民の皆さんは、どのように自分の時間を充実させているのでしょうか。女性センターの事業にかかわった感想も含めて語っていただきました。

「ゴスベルと地域活動で
ストレス解消」

中原玲子

ストレスとプライベートの充実には深い関係があると思います。私の場合、ストレスは仕事をしている時間と比例するように蓄積されます。ストレス解消を上手に行うとプライベートの充実を図らないと心身のバランスが崩れてしまつことにもなりかねません。

私のストレス解消法は自分の好きなことをして過ごすことです。私は約3年前からゴスベルサークルに所属し、週に一度ゴスベルを歌っています。大声で歌うことでストレスを発散し、同じ趣味を持つ仲間との交流によって会社以外の友人を得ることもできました。今ではゴスベルはかけがえのないものになっています。



また、ブーケ21事業協力ス

タッフの活動では、広報誌の制作にかかわることによって、地域活動に参加する楽しみや充実感を得ています。様々な年代のスタッフと意見交換する体験は、こんな考えもあるのかと勉強になります。広報誌班活動は地域活動でもあり、知識を学びよい機会にもなっています。

かっこよくて、地球にもやさしい 次世代型タクシーでまちを走る。

ベロタクシー・ジャパン サービスコーディネーター **上遠野 渉** さん



Q 今号の表紙を飾った「ベロタクシー」とは、どのようなものですか。

ベロタクシー(VELO TAXI)は、ドイツの首都ベルリンで1997年に誕生した自転車型の乗り物です。排気ガスを出さずに走れる環境にやさしい新たな交通システムとして、ヨーロッパを中心に世界で運行されています。日本では2002年に京都と東京で開業、現在21カ所で運行しています。

東京では丸の内を拠点に、主として中央・千代田・港・渋谷区域周辺を走っています。特定の停留場はなく、どこからでも乗車できます。現在、都内では30台が運行しており、約40名のドライバーが活躍しています。私もドライバーを経験後、現在の管理業務担当となりました。

Q どのような経緯で現在の仕事を始められたのですか。

大学時代は英語教師を目指していましたが、卒業後はフリーターに。いくつかのアルバイトを経験するなかで、偶然ベロタクシー事業始動の報に触れ、好奇心からドラ

イバーの職に応募したのがきっかけでした。ドイツ製の車両がかっこよく、身体にもよさそうで、いろいろな人と出会えるうえに、外国人客もいて英語がいかせる。興味をひかれるだけでなく、これまでに身につけてきたことが役立つように思えたのです。

想像以上にやりがいのある仕事に取り組みうち正社員となり、7年目の現在は主に車両のメンテナンスと、全体的な運行管理をしています。ドライバーの勤務行程づくりや休憩場所を含んだ運行コースの設定など、いずれも円滑な営業のための重要な仕事ですが、かつてのドライバー経験がいきていると思います。

Q 2005年には愛知万博(愛・地球博)でも運行し、大人気だったそうですね。

万博会場内の展示施設間の移動と、周辺市街地の交通手段として運行しました。私も運行管理係として参加しましたが、大きなイベントならではの目まぐるしい状況変化に合わせたマネージメントは過酷で、期間中に5キロも痩せてしまいました。

ベロタクシーは、広大で徒歩移動が困難な会場に適していたため大きな反響があり、終了後も一般的な交通システムとして地域に定着しました。どのような個性を持つ街でも無理なく融合できるその魅力を、あらためて実感する体験でした。

Q コニクな形の車体とともに、搭載されている広告も目をひきますね。

ベロタクシーには、街行く人の「足」という役割のほか、広告媒体としての顔もありま

す。ベロタクシーは平均時速が8〜11キロメートルと比較的ゆっくり走行するため、人間の視線を捉えやすいようです。小さいながらもその特性をいかし、ラッピングバスなどに負けない広告力を発揮できるものと考えています。

たとえば、空気を汚さず地球にも人にもやさしい乗り物であるため、環境に配慮する企業のイメージ広告に最適ですし、地域限定で運行することから商業施設などの開業の際にもよく利用されています。

クリスマスにドライバーがサンタクロースに扮するなど、時季やイベントに合わせてパフォーマンスも行います。地方の催事では長期滞在することもあり、現地の人との交流やその後の関係の発展は、この仕事のおもしろいところです。

Q ドライバーになりたい人、乗ってみたい人にメッセージはありますか。

ドライバーの仕事はやはり体力を要しますが、力の強さより安全に運転できることが重要です。女性も数名在籍していますよ。また接客業なので、人が好きであることも大切な要素です。多くのドライバーは人に喜んでもらえたり、楽しんでもらえることを自分の喜びと感じており、「楽しむこと」「楽しませること」が私たちの仕事であるともいえます。

まだ乗ったことがないという人も、ベロタクシーを見かけたらぜひ気軽に声をかけてください。他の乗り物では体感できない、ベロタクシーならではの車窓風景とゆつたりした時間のながれ、見慣れた街が新鮮に感じられる瞬間を楽しんでもらえると思います。

平成19年12月1日(土)中央区男女共同参画講演会

『素敵カップルになりませんか? 夫婦再生講座』を開催しました。

昨年末の土曜日の午後、女性センターにおいて、ブーケ21事業協力スタッフの企画・運営で、中央区男女共同参画講演会を開催しました。

現在の日本社会は、物質的には満たされているものの、児童や高齢者の虐待といった事件が毎日のように報じられ、人間関係の破綻や家族機能の低下が問題視されています。幸せな人間関係を築くためにはどうしたらよいのか

今回は子どもの成育にも大きく影響する「夫婦関係」をテーマとして、NPOファシリーター荒木次也さんの「セリングサービスの荒木次也さんに話を聞きました。」



荒木さんは、よりよい夫婦関係を維持するには自分の本音を出し合い、相手の個性を認めることが重要であると語ります。日常の些細な場面にも男性と女性のものの見方、行動習慣などには違いがあり、これを無視せず理解しあうことが大切で、そのためには他愛なく考える事柄でもこまめに話し合う努力が肝要だということです。たくさんの興味深いエピソードの中でも、とりわけ、3カ月で夫婦は素敵に変わる「というくだりは、参加者にとって印象的に響いたようです。相手の長所や好きなこと、楽しい思い出

などを書き出してみると、長年連れ添った関係でもお互いに対する新しい発見があるということでした。夫婦に限らずどのような人間関係でも、普段の何気ないコミュニケーションを大切にしていかに理解し合えるよう努めることが大切かもしれません。

現在、荒木さんは親子関係、引きこもりやドトなど、さまざまな問題に関するカウンセリングをしているとのことですが、とても気さくで説明も解りやすく、人柄が伝わってくるようでした。講演会場も終始和やかな雰囲気参加者が多く、企画者としても充実感を味わうことができました。寄せられた感想には、参加してよかった「これからもこういう講座を開催してほしい」などの声が多数あり、スタッフ一同大いに勇気づけられた1日でした。



(ブーケ21事業協力スタッフ執筆)

広がる男女共同参画/企業レポート

株式会社プレソナ

住民と一人三脚で地域の活性化めざす無料の地域新聞「中央らいぶ」を発行するプレソナ。飲食店の割引券などをつけて読者の獲得を図るフリーペーパーが多い中、地域情報の掲載を紙面の核としています。

創刊は平成17年1月。企業や行政の情報を市民に伝えるだけの二方向的なものではなく、街の誰もが発信者にも受信者にもなる媒体をめざし、発刊しました。

「中央区には以前から慣れ親しんでいました。仕事で知り合う商店の人々などが地域情報を扱う新聞を求めていることを知り、創刊したのです」とは、代表取締役の佐藤浩司さん。「住民、企業、行政などからなるべく多くの声を地域に還元したいと考えています」と、その使命を語ります。生活圏や活動地域の情報を誰でも簡単に入手できるように無料を貫き、中小企業や小さな店舗でも利用しやすいよう広告料も抑えているとのこと。「地域の活性化への貢献が重要な目的。一過性の利益追求では、地域も会社も得られるものは少ないでしょう」と続けます。



代表の佐藤さん(左)と編集部の丸茂さん(右)

民感覚が表れたせいか、記事がわかりやすいと逆に好評を得て勇気づけられた思い出があります。中央区の街が好きになつたの声もあり、読者の反響は大きな励みです」と微笑みます。

現在、配布部数は5万5千部。公共施設や駅に置くほか、住宅や企業にも配っています。印刷以外の全工程を自社で担っています。社員数は8名。そこで紙面を通じて協力員を募り、自宅周辺に配布してもらうことで限られたマッパを補っています。「現在

20名前後の方に協力いただいています。産休中の女性が散歩がてらに配ってくれたり、健康づくりに役立つたという声も聞かれ、皆さんが自分の時間や生活スタイルに合わせて楽しみながらかかわってくれているのを感じます。私たちも警察の許可を得て防犯パトロールを兼ねるなど、地域の役に立てるよう工夫しています」と丸茂さん。協力員が記事の材料を寄せることも多いとい、情報の受発信や記事づくりも含め、住民と一人三脚でつくれる新聞のようです。

編集経験や営業知識のないスタッフだけで創刊したという「中央らいぶ」。当初は苦労が絶えなかったそうですが、編集部の丸茂貴理香さんは、手探りで始めたことで普通の市

プレソナには現在、在宅で原稿執筆や編集に携わる育児中の女性もいるそうです。社員や地域の人の事情も考慮し、それぞれにできる範囲で協力してもらうことで、多様なあふれる充実した内容となるのかもしれない。多くの支えと中央区の姿が凝縮されたメディア、「中央らいぶ」の今後が楽しみです。

NEWS
講座開催報告 就労支援講座
「働きたい 最初の一步
将来のわたしのために」



講師の町澤京子さん

昨秋、女性センターでは、育児等で仕事を離れ、再び働きたいと考える女性を対象に、再就職準備講座を開催しました。

8日間の講座は初対面の参加者がお互いを紹介しあう「他己紹介」から始まり、適職診断や履歴書を書く練習、労働法に関する講義など、実践に即した内容で行われました。

20歳から40歳代の受講者は、乳幼児を抱える人が大半でしたが、保育サービスを利用しながらほとんどの人が全日程を修了し、就職に対する熱意が感じられました。

自分の得意分野などを見つめ直す「自己分析」の作業で新たな特性を発見したり、面接官と応募者に分かれた模擬面接で本番さながらの緊張感を味わうなどの体験をした参加者からは、「勉強になった」「就労に関する知識だけでなく、情報交換できる仲間を得た」といった感想が多



講義に聞き入る参加者の皆さん

NEWS
「中央区男女共同参画推進委員会委員」が決まりました

平成19年10月10日〜11月28日に開催く寄せられました。

平成20年2月1日から、17名の方々が男女共同参画推進委員会委員に就任されました。

委員会は、学識経験者、各団体からの代表者、公募により選ばれた区民で構成されています。今後、2年間の任期中、区の男女共同参画推進施策について、随時ご意見をいただきます。

青木真知子（中央母の会副会長）

尾山三千代（中央区女性海外研修者の会会長）

加藤文子（中央区婦人学級連絡会会長）

河本佳子（中央区女性ネットワーク会長）

岸本裕子（区民）

小村眞理（中央区日本橋地域民生児童委員協議会副会長）

櫻井 務（東京都労働相談情報センター所長）

佐藤洋子（ジャーナリスト）

篠原良子（中央区社会福祉協議会登録ボランティア）

竹信三恵子（朝日新聞記者）

細谷 実（関東学院大学教授）

本多 昇（連合東京中央地区協議会議長）

松岡誠一郎（中央区青少年委員）

松原喜彦（区民）

深山房子（常盤小学校校長）

森田由美子（区民）

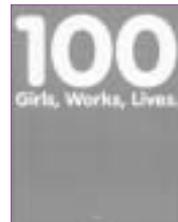
山野 壽子（東京商工会議所中央支部副会長）

（五十音順）

お勧め図書のご案内

女性センターでは、性別にとらわれない、自分らしい生き方を応援する資料が揃っています。ぜひご利用ください。

『天職ガールズ』



藤原美奈ほか編

やりがいのある仕事に出会い、人生を謳歌する女性たちの、仕事に対する考えやそこに至る道のりを紹介します。

『カチャ・クルマン32歳 産まないって決めたわけじゃなくて...』



カチャ・クルマン 著

30代のドイツ人女性である作者が、妊娠や出産といった事柄を軸に、自分が女性であることや人生を問い直す作品です。

館長雑記

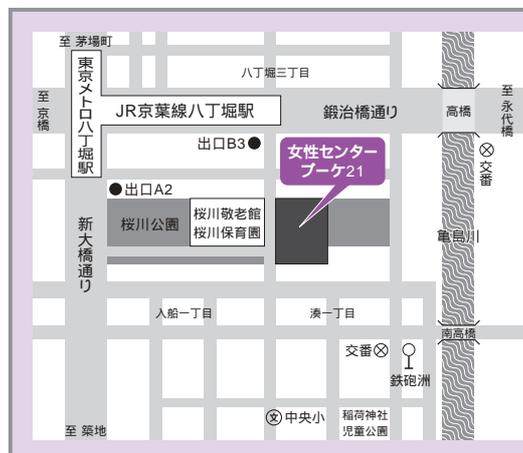
「私の」時間、「一緒に」時間、「みんなの」時間

松川 淳子

中央区は面積こそ小さい区ですが、江戸時代から日本の経済や情報流通の中心地として発展してきました。平成18年には、昭和50年以来31年ぶりに人口が10万人を越え、その後も増加を続けています。

そんな中、新しい場所で仕事や子育てを始める若い家族を応援する施策が打ち出されてきました。ブーケ21でも昨秋、小さな子どもをもつ女性を対象とした講座を実施しました。講座は子育てをしながら働きたいと考える女性の就労を支援するという内容でしたが、参加者の多くは自分と似た状況にある仲間との出会いや、ゆっくり考え事をする時間などを得たことに満足感をもたれたようです。

子育てはかけがえのない、子どもと「一緒に」時間です。でも人生には、自身を見つめ直して、磨きかける「自分の時間」も大切です。友人とお喋りや議論をする「みんなの時間」も必要です。人間は、ぜひいたく動物なのかもしれません。この「ぜひいたく」を大切に、充実した人生を過ごすことができるよう、ブーケ21は今後もさまざまな企画を実施していきますので、ぜひ足をお運びください。



中央区立女性センター
「ブーケ21」へ
来てみませんか。

研修室等や図書の貸出のほか、女性のための無料相談も行っています。

所在地 〒104-0043 東京都中央区湊1-1-1
東京メトロ日比谷線・JR京葉線八丁堀駅、徒歩5分

TEL.03(5543)0651 FAX.03(5543)0652

開館時間 毎日午前9時～午後9時(年末年始、臨時休館日を除く)